



みんなで子育て

西濃県務所 振興防災課 振興防災係
家庭教育推進専門職 酒井
電話:0584-73-1111 <内線212>
E-mail: sakai-toshinori@pref.gifu.lg.jp

家庭教育についての
相談はこちらまで。
お待ちしております。



家庭教育応援通信
バックナンバー

坂内公民館 揖斐川上流漁業協同組合 共催

親子体験活動「鮎釣り教室」

体験活動参加型

令和8年7月26日(日) 9:00~11:30

坂内地区、揖斐川町在住の親子



ふるさとの川で広がる鮎釣りの魅力

「鮎釣り人口を増やしたい。大人になっても鮎を釣りに来る人を増やしたい。」という願いのもと、揖斐川町在住の親子を対象とした「鮎釣り教室」が10年以上にわたり開催されています。揖斐川町に住んでいなくても、揖斐川町出身の親子であれば参加することができ、今年は久しぶりにふるさとへ帰省した親子の参加もありました。

教室の参加者募集は、揖斐川町の広報で知らせるほか、北方小学校や北和中学校でチラシを配布して行っています。今年からは、北和中学校が家庭教育学級の活動の1つとして位置付け、参加を呼びかけました。今年は10組の親子が参加しました。安全のためライフジャケットの着用が必要ですが、貸し出しもあります。

講師を務めるのは揖斐川上流漁業協同組合の皆さんです。釣り竿やおとり鮎を準備してくださるほか、各家族に1人ずつの「鮎釣り先生」として、丁寧に指導してくれます。

「夏は水難事故のニュースもあり、子どもに川遊びを体験させたくても不安があります。この教室は多くの人目があり、安全面にも十分配慮されているので安心です」と話し、毎年参加する親子もいます。また、去年は1匹も釣れなかったため、リベンジしようと意気込んで参加した親子もみられました。

当日は暑い日でしたが、川面を吹き抜ける風は涼しく、親子は交代で竿を使いながら鮎釣りを楽しみました。釣果は、去年の参加者全員で13匹だったのに対し、今年は35匹と大幅に増加しました。初めて鮎を釣り上げた保護者や、参加2年目で初めて釣ることができた子ども、自己最高の5匹を釣り上げた子どももあり、参加者にとって思い出深い1日となりました。



鮎は岩についた苔を食べ、縄張りを持っています。おとりの鮎に攻撃したところをひっかけて釣ります。



鮎釣りの先生がマンツーマンで教えてくれます。



お父さんと子どもで釣り竿を握り、お母さんは釣れる瞬間を狙って撮影中！



釣れた！！



アユ釣り教室開催中
揖斐川上流漁協

大垣市 みつづかこども園 家庭教育学級（講演会型）

自己肯定感・自己効力感を育てる

令和8年6月30日（火）・7月1日（水）

10:30～11:30

対象：希望保護者



初めての家庭教育学級を開催！

〈講師〉西濃県事務所 家庭教育専門職

みつづかこども園は、昭和27年（1952年）設立のまこと保育園が、平成28年（2016年）に幼保連携型こども園となり、令和3年（2021年）に新築・移転した園です。園では、未就園の乳幼児と保護者が集う子育てサロンを開催しています。毎月の園便りでは、目標をもたせること、褒めることの大切さを伝えたり、西濃地区家庭教育応援通信「みんなで子育て」に掲載した県作成の動画の紹介を保護者に配付したりするなどして、日頃から家庭教育の情報を伝えています。

今回、保育参観の日に合わせて、園で初めて「家庭教育学級」として保護者の学びの場を作っていただきました。参加者からは、子どもとの関わり方や肯定的な声かけ、自己肯定感・自己効力感を育むための具体的な方法について「分かりやすく、すぐに実践できる内容だった」との声をいただきました。また、子どもとの限られた時間の大切さを再認識していただき、親自身の関わり方や思い込みを見直す機会になったという声もいただきました。保護者が子育てを前向きに楽しんでいきたいという思いにつながれば、幸いです。



【参加者の感想】

少し意識するだけでできることもたくさんあることがわかり、「目からうろこ」でした。

伝えても伝わらないのは、こういう理由だったのか!!と分かりました。

1時間があっという間で、楽しく聞くことができました。話が終わる頃には、泣いてました。

今が今しかないことを感じ、今の幸せを積み重ねていきたいと思いました。

正直にいうと、声かけで困っていることも多かったので、今日からできることをやっていこうと思います。

今日参加していない夫にも、子どもと過ごせる時間は生涯で3年ぐらいしかないと伝え、2人で子育ての幸せを味わっていききたいと思います。

大野町立南小学校 家庭教育学級（体験活動参加型）

親子で弾んで楽しもう！バランスボール

令和8年7月14日（火）13:30～14:30

川合ふれあいセンター 対象：1年生親子

〈講師〉ことねわ代表
中島 美由紀 様

バランスボールの基本的な座り方とともに、姿勢や呼吸法などについても教えていただきました。



親子で楽しく身体作り

大野町は、美しいバラで知られる町です。南小学校のすぐ近くに大野町バラ公園があり、バラが咲く季節には多くの人でにぎわいます。今回の会場となった川合ふれあいセンターも学校のすぐ隣にあり、子どもたちは先生と一緒に学校から、保護者の皆さんは直接会場へ集まりました。

当日は暑い日となりましたが、活動は冷房の効いた快適なホールで行われました。バランスボールに腰掛けて弾んだり、ボールを持ち上げたり、親子で協力しながら競技に取り組み、楽しく身体を動かしました。親子で一緒に身体を動かすことで、自然と会話や笑顔が広がりました。

- ・ 良い姿勢は集中力や発音、歯並びなどに関係します。
- ・ 成長期の子どもには呼吸を整えることが重要です。
- ・ 鼻呼吸を意識しましょう。
- ・ 親子で成長や頑張りを認め合いましょう。
- ・ 「できた」を積み重ねて自信を育てることができます。

の挟み、大人は膝でボールを
上でジャンプ！



し動作いつも何気なくできる
難しいです。ボールがあると少

実施予定日	回	活動内容	備考
7月10日(金)	1	大野町家庭教育学級合同研修会	大野町総合市民センター(役員)
7月14日(火)	2	親子バランスボール	川合ふれあいセンターにて開催
夏休み	3	話そう！語ろう！わが家の約束	全学年各家庭
9月19日～27日	4	家庭でおひざ読書	各家庭にて取組
11月12日(木)	5	給食参観・試食会・講話	小学校にて開催
冬休み	6	はく週間	各家庭で取組
2月10日(水)	7	閉会式	懇談会時に開催

開閉式（書面開催）で1年間の計画をお知らせしています。参加の予定が立てやすいです。

大野町 家庭教育学級・読書サークル合同研修会

講演会型

令和8年7月10日(金) 10:30~11:45

対象：大野町家庭教育学級生・読書サークル会員



本がつなぐ親子の絆 ～子どもの「好き」を育てる研修会～

大野町で毎年この時期に開催される家庭教育学級合同研修会は、これまで子育てに関する講話が中心でした。今年は、こども園・小学校の家庭教育学級生と、幼児読書サークル会員（こども園の保護者）・親子読書サークル会員（小学校3年生の保護者）を対象に、「読み聞かせのスキル」と「図書館活用術」をテーマとして、2人の講師からお話を伺いました。お二人とも語りかけるような優しい口調で、「読み聞かせは親子の愛情と言葉のプレゼント」「本は親子の時間と子どもの未来を育む」というメッセージを届けてくださいました。

大野町では、「親子読書」「おひざ読書」「抱っこ読書」など、家庭で取り組む家庭教育学級が行われています。今回の研修会をきっかけに、親子で図書館に足を運び、一緒に本を選び、唯一無二の親の声で読み聞かせをする機会がさらに増え、子どもの「好き」が育つことを願っています。

読み聞かせがつなぐ親子の心

講師：おはなし舎 和母 代表

○読み聞かせのすすめ

- ・読み聞かせは家庭で気軽にできる親子のふれあいの時間。
- ・寝る前やすき間時間に取り入れるのがおすすめ。



○読み聞かせのポイント

- ・子どもが読みたい本を選ぶ。
- ・絵本だけでなく図鑑や伝記でもよい。
- ・上手に読むより、親の声で自然に読むことが大切。

○子育てで大切なこと

- ・子どもを他人と比べず、その子らしさを認める。
- ・否定的な言葉より、前向きな言葉をかける。
- ・子どもの可能性を信じて応援する。

○お母さんへのメッセージ

- ・一人で抱え込まず、周囲の力を借りる。
- ・お母さん自身がご機嫌でいることを大切にする。

○まとめ

- ・読み聞かせは、親子の心をつなぎ、「心・頭・体・力・愛」を育てる時間。
- ・親の声で読んであげることが何より大切。

○読み聞かせが育てるもの

親子の「好き」を育む図書館

講師：大野町図書館司書

○図書館は「好き」を育てる場所

- ・興味や関心を広げ、深めることができる。
- ・「知りたい」「やってみたい」を応援してくれる。
- ・親子で新しい発見を楽しめる。

○保護者にもおすすめ

- ・趣味や生活に役立つ本も豊富。
- ・大人自身が本を楽しむ姿は子どものよいお手本になる。

○図書館は気軽に利用できる

- ・本を借りなくても利用できる。
- ・お話会や気分転換の場として活用できる。
- ・地域の身近な居場所のひとつ。

○便利なサービス

- ・赤ちゃんから図書カードが作れる。
- ・本の予約や取り寄せができる。
- ・カード再発行やWi-Fi利用にも対応。



○まとめ

- ・図書館は親子の「好き」を育てる場所。
- ・本との出会いを通して、学びや楽しみが広がる。
- ・気軽に足を運び、自分らしい利用方法を見つけてほしい。



- ・良い言葉にたくさん触れ、心の栄養になる。
- ・笑う・泣く・驚くなど多様な感情を体験できる。
- ・思いやりや優しさが育つ。



- ・語彙力や国語力が高まる。
- ・言葉の理解力が育ち、学習全般の土台になる。
- ・自分の考えを表現する力につながる。



- ・落ち着いて話を聞く習慣が身につく。
- ・集中して耳を傾ける力が育つ。
- ・聞く姿勢や生活のメリハリにつながる。



- ・想像力・表現力・集中力が育つ。
- ・芸術や絵への興味が広がる。
- ・自分の考えを言葉にする力につながる。



- ・親の愛情が子どもに伝わりやすい。
- ・親子の距離が近づき、安心感を育てる。
- ・自己肯定感や人を信頼する気持ちの土台になる。

※ 掲載イラストは生成AIを活用して作成しています。言葉は、講師のお話からまとめました。

親子で仲良く読書タイム

在宅取組型

令和8年7月13日(月)～19日(日) 対象：全親子

親子で楽しむ読書の時間

養基保育園の園児たちは、本が大好きです。遊戯室には「やぎっことしょ」という絵本コーナーがあり、毎年保護者会が新しい本を購入して充実させてきました。園児は毎週1冊好きな本を選び、自宅へ持ち帰って楽しんでいます。また、5歳児は月に1回、池田町図書館へ出かけて本を借りています。「親子で仲良く読書タイム」は、そうして借りた本や家庭にある本を親子で読んだり、読み聞かせをしたりする1週間の取組です。子どもたちは、ページをめくりながら「次はどうなるのかな?」とわくわくした様子で物語を楽しんだり、本の中で興味のある虫を見つけて喜んだり、絵本の内容をまねて遊んだりしていました。親子で絵本に親しむことで、身近なものへの関心が高まり、親子の共通の話題も広がりました。



【保護者の声】

親子で楽しんだ!

- 絵本を通して親子でゆっくり過ごす温かい時間が増え、会話も広がりました。パパに絵本を読んでもらい、子どもは大喜びでした。
- 「読んで!」と絵本を持ってくる姿がうれしく、楽しい時間となりました。

絵本への興味が広がった!

- 自分で絵本を選んだり、借りた本を楽しんだりするなど、本への関心が高まりました。
- 絵本と実際の出来事を結び付けて話す姿も見られるようになりました。

成長を感じた!

- 自分でページをめくったり、好きな絵本を見つけたりする姿に成長を感じました。
- 興味のあるものを見つけ、わくわくしながら絵本を楽しんでいました。

親子で仲良く読書タイム☆

くみ なまえ								
7/13日	7/14日	7/15日	7/16日	7/17日	7/18日	7/19日		
(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(土)	(日)		

親子で読書をした日に色をぬってね!!

～感想やおすめの一冊を教えてください～

子どもが好きな絵本をみつたり、
おはなはシリーズが大好きで、絵本に
興味をもつてくれたことがうれしかった。
なつこは読書の時間がとても楽しかった。
おすめ 14歳の女の子 シリーズが大好きです
14歳の ひろこ

※23日(木)までに担任の先生に提出してください。



保護者のOBや祖父母による「メーメーカークラブ」が、毎月1回お帰りの前に読み聞かせに来てくれます。今年から、民生児童委員による読み聞かせも始まりました。

「水まんじゅう作り体験」

体験活動参加型

令和8年7月29日(水) 10:00～12:30 対象：希望親子



親子で学ぶ郷土の味

大垣市は、豊富な自噴水や美しい河川に恵まれていることから、「水都(すいと)」と呼ばれています。

「水まんじゅう」は、その豊かな地下水を生かし、夏にぴったりの涼菓として大垣で生まれた和菓子です。

北小学校では夏休みに、大垣市内の和菓子店の職人を講師に迎え、親子で水まんじゅうづくりに挑戦する手作り教室を開催しました。人気の高い家庭教育学級のため、8月末にも再度開催する予定です。当日は、PTA家庭教育委員会の皆さんがスタッフとして講師をサポートしました。

まず、鍋に地下水を入れ、砂糖、くず粉、わらび粉を加えて混ぜながら火にかけます。すると、次第にとろみのある生地ができあがります。熱々の生地をお猪口に流し入れ、あんこを包み込むようにさらに生地を重ねて蓋をして蒸します。お猪口が熱くなるので、やけどに気を付けながら、一人4個ずつ作りました。お猪口にはそれぞれ模様が付いているため、自分の作品がひと目で分かります。約10分蒸した後、水まんじゅうを氷水で冷やし、その間に練り切りも2個作りました。

参加した子どもたちの中には、水まんじゅうを作るのも食べるのも初めてという子もいました。お猪口の縁に水道の水を当てると、水まんじゅうがつるりと器から外れます。職人から「出来たてが一番おいしい」と教わり、完成した水まんじゅうを手ひらにのせて、そのまま一口で味わいました。口いっぱいに広がる涼やかな甘さに、言葉はなくても満足そうな様子が伝わってきます。

参加者は1個をその場で味わい、残りは家族へのお土産として持ち帰りました。郷土の伝統的な味に触れながら、親子で楽しい夏の思い出をつくるひとときとなりました。

